一月のいそかんブログから

突然磯津にバードウォッチャー

今日、漁協に用事の帰り、鈴鹿川本川河口で、すごい望遠のカメラを向ける集団に出会いました。ナニナニと人なつこく寄っていくとその中のお一人が素人の私に鳥類図鑑を見せて、親切に説明してくださいました。
彼らがねらっているのは、ソリハシセイタカシギ。1年に全国で10羽と見られない珍鳥・迷鳥。渡り鳥でまれに一羽で日本にやってくるのだそうです。皆さん必死で、ほとんどの人はずっとカメラをのぞき込んだまま。その望遠カメラ、車一台が買えるほどの高額カメラだそうです。どうやって、このシギを見つけやってこられたのか？連絡し合ったの？いや、連絡し合うと100人は集まると言います。皆さん相当なマニア。その中に、ななんと先輩で最近野鳥の本を書いている久居のＩさん夫妻もいたのにはおったまげました。
２日もして、えさを食べて元気になると明日にも飛びたっていくのだそうです。そりゃあ、今日の今がすごいチャンス。
私など鳥より必死になっているオジサンオバサンを観察してる方が楽しい？！

迷鳥　ソリハシセイタカシギ

今堀先生から昨日のソリハシセイタカシギの映像が届きました。その中の一枚、こんなコメントが付けられていました。
「…久しぶりの鈴鹿川でした。写真数枚添付しました。迷鳥でめったに見られないのですが、２年前には鈴鹿川派川に２羽来たそうです。おもしろい習性を発見して寒さを忘れました。カモが浅い所で川底をかき回して採餌するのですが、ソリハシセイタカシギがカモの近くで出てくる底生生物を捕えているのがよく分かりました。カモと一緒に行動している理由のひとつのようです。みずかきがあって泳ぎもできる、姿もユニーク。人気があります！」
なるほど。こんな発見、このクリアーな写真、そんな積み重ねが先輩をやみつきの世界に引っ張り込んだのですね。ご夫婦で、同じ趣味で飛んでいけるのも羨ましい限りです。

あけもどろ。今から４５年ほど前、私は学生時代、この言葉をはじめて知りました。それは「夜明け前の一段と暗く感じるとき」というニュアンスでした。今回、調べなおしてみると、沖縄奄美の言葉で、「太陽が明け方、朝日に染まり始めた頃、色あざやかな光がうずまき状をなしている光景」とありました。
これは昨日磯津通信を配っていて、７：００磯津の海に昇った太陽です。ちょっと気の早い「磯津の初日」です。
１９７０年代、同名の小説『あけもどろ』（1971 霜多正次）があったのを思い出して、アマゾンで注文しました。１円でした。

今日はいそかん（磯津環境学校）第55回。凧づくりももう5回目ぐらいですかね。磯津でこの冬の時期に「凧上げ」をするのは、実は意味を持たしているのです。公害が激しかった頃、北西の季節風に乗ってたくさんの煤塵が運ばれました。そのコンビナートから吹く風を感じる（意識する）なんて思いです。
まっ、それはちょっと無理はあるにしろ、正月は昔は凧上げでした。この山下潔先生に教えていただいたダイヤ凧。とても簡単で良くあがるし、自分の絵を丁寧に描いて楽しめます。今年もお父さんとやって来たも小学校3年のY君は短時間で４つ（お父さんと併せて７つ）も作っていきました。（この写真は今までの中でうまく撮れた連凧の写真です。いいでしょ。）

これは私が習ってる日本画教室でボクが今、描こうとしている小下絵、と言うよりは「素下絵」かな。日本画で「小下絵」は設計図のようなものです。ここに自分の描きたいものを入れ込み構図を考えて、本番の縮小版をつくるのです。ボクが描き込もうとしているのは近所の石薬師高校の何本かある桜の古木のひとつと楠から磯津に流れる灌漑用の堀切川「江川」近辺の風景。まだ、下絵ですので色合い、細部はもっと描き込んでいくつもりですがほぼこれでいくつもりです。夕焼けに枝の細やかな表情を入れたいと思っています。下の風景もタンクヤードの近くに足を運んで、なるべくリアルで、しかし象徴的に描きたいと思っています。